

11 琵琶湖・富士図 山元春挙

対幅

大正十四年（一九二五）
絹本着色
各一七・九×三六・〇

大正十四年（一九二五）、大正天皇大婚二十五年（銀婚式）を祝って京都華族一同より献上された本図は、琵琶湖と富士をそれぞれ春景、秋景で描いた対幅である。富士は言わずと知れた日本一の山であり、東海道の整備とともにその麗姿を多くの人々が目にするようになったが、そのはるか昔から東国の名所として和歌の



中に詠み込まれてきた。一方で日本一の湖である琵琶湖も、現存例はないものの平安時代の名所絵にすでに描かれていたという。そして中国の瀟湘八景になぞらえて近江八景として琵琶湖周辺の景勝が選ばれてからは、それが画題としても用いられるようになった。

洋画技法や写真術にも長けていた山元春挙（二八七一〜一九三三）は、実景写生に加えて、そうした新たな技術を応用しながら、ロッキーマウンテンや日本アルプスなど数々の山岳を題材とした名作を残した画家である。富士に関しても昭和四年の第十回帝展に出品した《富士

二題》（滋賀県立近代美術館蔵）などの代表作がある。また滋賀県大津市に生まれた春挙にとって、琵琶湖はなじみ深い風景であり、大正三年から十年間かけて琵琶湖畔に蘆花浅水荘という別荘庭園を設けるほどにその景色を愛していた。富士と琵琶湖、どちらも前景に小さな草花と人々を描き、背後の雄大な自然モチーフを強調する手法をとっている。点景などに鮮烈な色彩を効果的に賦すことで、伝統的な名所をモダンな風景画にアレンジしているところに春挙の近代的感覚があらわれている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan